

笑う門には  
福来る。



松山市勝山町1-18-10  
(株)日本交通社  
TEL(089)946-3911  
発行人：中村剛志

かなしみをかき  
あたたかいあつて  
あふいてけこる  
えいほ空良民

■かなしみをあたたためあつて

四十六歳から四十七歳の頃の詩で、第七詩集『静かな愛』の巻頭に掲載されている。この時期は、眼の病に引き続き内臓の病気に罹り生死を彷徨う状態から、利根白泉先生の助力により大難を克服し、吉田から宇和島東高校に転動した年でもある。

坂村真民記念館(砥部町)

明朗・愛和・喜働

人は城

甲斐の戦国大名・武田信玄は、最強と謳われた騎馬軍団を作り上げた武将です。

生涯における合戦の数は百三十余度に及び、二度たりとも敵を自国に入れることはありませんでした。

信玄は青年時代から禅や学問を学び、また詩や和歌にも親しんできました。信玄の詠んだ和歌の中で、最も有名なのは次の歌でしょう。

人は城 人は石垣 人は掘  
情けは身方 仇は敵なり

「仇」は「恨むこと」という意味です。信玄は堅固な城を造るよりも、領民の生活の安定に努めました。人を大切に、「武田二十四将」と呼ばれる幹部を育て、最強の軍団を作り上げたのです。この和歌は、後に江戸時代の人が作ったという説もありますが、信玄の生き方をよく表わしたものととして、現代でも広く親しまれています。

「人材は人財である」とは、よく言われることです。人と人が協調して仕事に励む時、苦難は去っていくでしょう。

●人と和しましょう

「職場の教養」より

結女さんの松山ミクロン

「あ」と「うん」の間で秋を待ってをり

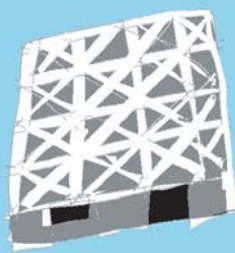


白粉花  
セーラー服は  
ついぞ着ず



八木健さんの川柳アート

外見は事務所耐震補強ビル



健



ゆず発刊(〇八九一九五七―二五五)

宇和ちゃんの啖呵短歌

知らぬ間に農道整備進みぬ  
縦横無尽に過疎広がりぬ

恥をかけ冷や汗もかけ泣きも見よ  
逃げてばかりで夢は掴めぬ

道しるべ

後始末が前進を生む

後始末は、けじめであり次のスタートの準備でもある。物と心の後始末で前進しよう。後始末はすぐやるのが決め手。